

全自者協ニュース

JAAS (Japanese Association of Autism Support)

- ・全自者協ニュース／第44号／2014年（平成26年）10月
- ・発行所＝全国自閉症者施設協議会・事務局 ☎ 097-578-0818
- ・発行人＝五十嵐康郎・編集人＝宇治原誠・URL <http://zenjisyakyo.com>

「追悼 恩師石井哲夫先生を偲んで」

全国自閉症者施設協議会
会長 五十嵐 康 郎

初めて石井哲夫先生にお会いしたのは、30年前に社会福祉法人嬉喜が主宰した自閉症児治療教育実践講座でした。当時勤務していた滝乃川学園で自閉症児を担当し、自閉症の障がい特性等についての専門的な知識がなかった私にとって、正に運命的な出会いでした。受講中も先生やスタッフの方々に質問攻めにし、先生の著作を読み漁り、同僚に伝えたい一心で長大な研修報告を書いたことが先生の目に留まり、その後の研修会にスタッフとして招待されたことから先生との師弟関係が始まりました。

当時の研修報告の一部を紹介します。「石井氏は短時間のうちに子どもたちとの間に受容的關係を築き、交流し、即興的に課題を設定し、方向づけをしていった。技術的にも優れたものであり、単に学者としてではなく、臨床的にも十分な経験や修練を積んでいることを意味している。〈中略〉子どもが私たちの意図や計画通りに動いてくれるとは限らない。〈中略〉そうしたなかであって子どもの心を読みとり、受容したうえで、即興的にこちらの取るべき態度や役割を判断し、課題を設定して方向づけをしていくことは、深い人間的愛情や専門的理解に裏付けられた厳しい長年の経験と修練がなければできうることではない」さらに別の個所に「受容的交流療法は単に自閉症児のみにおいて有効であろうか、私はそうは思わない。この項のはじめに人間価値観であり、原理原則論であることだったが、〈中略〉親子関係、夫婦関係、同僚や友達関係においてさえ有効であり、貴重である。現代における様々な問題をこの受容的交流療法というフィルターを通して見たとき、奇跡的とも思えるほどに氷解するのである。正

に神の意志にもそう考え方であり、私には眼前の霞を取り払われたかのごとく思えたのである」（原文のまま）と記しています。「神の意志にもそう」という件に当時私が受けた衝撃の大きさが表れています。

先生との出会いがなければ、自閉症施設創りを思い立たなかったに違いありません。先生に傾倒する中で理想の自閉症施設を創設したいとの思いが募り、先生に真っ先にご相談し、理事にもご就任いただくなど大きなお力添えをいただきました。

特に忘れられないのは、開園後間もない頃、職員間のトラブルから中心的な職員が退職し、落ちこんでいた時に、先生から「流れに身を任せなさい」とのご助言をいただいたことです。その後、職員が定着・成長し、平成26年度には、職員総数が100名を超え、一人の退職者も出さずに新年度を迎えることができました。

二十年程前に先生が病に倒れられ、病室にお見舞いに行った時に、先生が6人部屋に大量の専門書を持ち込まれ、書評を書いておられ大変驚いたことを覚えています。お聞きするところでは自閉症児の幸せを願って死の直前まで自閉症児のお母さんや発達障害議員連盟の国会議員の先生と電話でお話しをされていたとお伺いしました。

自閉症療育や保育に先生が残された足跡は計り知れないほど大きなものです。先生と出会えたこと、先生からご指導いただいたこと、全てが私たちにとっての貴重な財産であり、誇りです。石井哲夫先生、安らかに眠りください。そして私たちをお見守りください。

平成二十六年 総会報告

◇第一回理事会の開催

四月九日、チサンホテル浜松町で平成二十六年度第一回理事会が開催され、年次総会で諮る議事内容を討議した。それに先立ち、監事による会計監査も行なわれた。監事監査、理事会ともに定数の役員の出席を得ている。

◇平成二十六年総会の開催

全国施設長会議の前日にあたる六月十一日、こどもの城九〇四・九〇五研修室において、全国自閉症者施設協議会の年次総会が開催された。多忙な時期にもかかわらず、出席の三十九施設に加えて、二十七施設から委任状の提出があり、総会が成立した。

◇会長挨拶

開会に先立ち、本協議会の元会長である石井哲夫氏が五月二十八日にお亡くなりになられたため、全員で黙とうをささげた。

会長挨拶では、石井哲夫氏が本協議会を立ち上げられたことなどの功績とその意思を受け継いで全員で力を合わせていきましようという話があった。

の話があった。石井哲夫氏が田村憲久厚生労働大臣との対談を予定していたため、代わって本協議会の会長である五十嵐康郎氏が近く対談するとの報告があった。対談の中では、自閉症施設、自閉症スペクトラムの方の思いを伝えること、発達障害の中に知的障害が含まれるというのが本来の姿なので、法制度を見直すこと、また療育手帳は自治体で独自に基準を定めているので、国で法制化すべきではないか等と提言を行う予定であるとの報告があった。

次に、発達障害支援スーパーバイザー養成研修を日本財団の助成を受けて実施することが決まったことに対して、座学だけでなく現場での実務の研修は本協議会にできない研修であり、自閉症・発達障害の理解と支援の質を高めていく上において決定打とも言える有効な取り組みであるとともに、研修を通してお互いが連携を深めることにも大きな意義があるという話があった。

続いて、強度行動障害の方たちの地域生活を支えていく取り組みの中で、今回のグループホーム・ケアホームの一元化による改正に伴い、大幅な減収となって運営がとてもしばしば状況になっている施設があること、強度行動障害の方が精神病院に多く入院されており、在宅でも生活が破たんする厳しい状況に置かれている中で、どのように支援し地域生活にまで結び付けていくか本協議会で取り組む必要があること、そして、発達障害支援スーパーバイザー養成研修では人脈を広げて連携を取ることに大きな意義があり、現場の組織、現場の実践を主体にしている本協議会は貴重な組織でもあるため、この機会にきちんと次の世代に引き継いでいく必要を感じているとの話があった。

◇新規入会施設の紹介

先の第一回理事会で承認されている今年度の新規入会施設である社会福祉法人永寿福祉会永寿の里彩羽（大阪府）が紹介され、社会福祉法人正夢の会 がパサージュいなぎから昭島生活研究所（東京都）に変更されたことが報告された。

◇議事の進行

富山県・社会福祉法人めひの野園 うさか寮の東貞盛氏が議長に選出され、九つの議案が検討され、いずれも全会一致で承認を受けた。

(一) 平成二十五年事業報告が事務局から行われた。

平成二十五年年度に実施した事業は①平成二十五年十一月十四日から十五日、第二十七回研究大会【大阪大会】の開催と報告集の発行、②平成二十六年度の第二十八回研究大会（熊本大会）の計画、③会報（全自者協ニュース）の年二回発行と関連団体等への送付、本協議会ホームページの整備、④会員（施設・個人）名簿の作成⑤厚生労働省等の行政機関、日本自閉症協会や日本知的障害者福祉協会をはじめとした関連団体との情報交換、連携、要望活動など、となっている。

(二) 昨年の第二十七回研究大会大阪大会の報告が萩の杜 勝部真一郎氏から行われた。

(三) 平成二十五年年度決算報告、および諸事業の決算報告の後、監事の埼玉県・けやきの郷の平野眞巳氏の代理 水野務氏より、適切

に会計処理がなされていたとの報告があった。

(四) 役員の改選が行われた。新理事に東京都・社会福祉法人嬉泉の石井啓氏、監事に埼玉県・社会福祉法人けやきの郷 初雁の家水野務氏、日本自閉症協会関係からは新代議員に社会福祉法人嬉泉石井啓氏、新A S J委員に東京都・世田谷区立下馬福祉工房 川名あき氏が選任され、全員が承認された。

(五) 平成二十六年事業計画案が事務局より提案され、承認を受けた。

(六) 平成二十六年予算案が事務局より提案され、承認を受けた。

(七) 第二十八回研究大会は、本年十一月十三日と十四日の両日に熊本県熊本市のメルパルク熊本で開催する予定である。中国・四国・九州ブロックを代表して、主管施設の熊本県・社会福祉法人三気の会 三気の里 松田健氏から大会要項案が提出され、検討が行なわれた。

(八) 来年の第二十九回研究大会は、神奈川ブロックの施設が協力して開催にあたることとなった。主管施設には、神奈川県・社会福

祉法人川崎市社会福祉事業団 川崎市くさぶえの家が決定しており、日程は平成二十七年十一月十二日と十三日を予定している。

(九) 平成二十六年発達障害支援センターバイザー養成研修について五十嵐康郎会長より報告があった。今年度から、日本財団の助成で発達障害支援センターバイザー養成研修を実施することになった。中でも実務研修はこの全自者協でしかできない研修である。定員五十名の研修者を集め、ぜひこの事業を成功させたいので協力していただきたい。また、次の時代を背負っていく中心的な方にぜひ参加していただき、今後連携につなげてほしい、との要請があった。

(十) その他

◇会員の動向について、退会した施設が正会員一施設、入会した施設が正会員一施設で、正会員施設数は七十施設となったことが報告された。

◇世界自閉症啓発デーの報告がおおらか学園 樋口美津子氏からあった。参加者は昨年より若干減ったが、全国からの参加があったこと、一般の方、行政の方の参

加が増えたこと、シンポジウムでは各地の特色ある取り組みが紹介され、盛況に行われたとの報告があった。

◇ケアホームとグループホームの一元化について、北海道・社会福祉法人はるにれの里 木村昭一氏より意見があった。区分に関係なく利用できるようなったのはよいことであるが、夜間支援体制加算の見直しがされたため、既存の事業が大きな減収となり、運営が危機的状況にあること、今後、重度者のグループホーム展開が難しくなることが心配され、一型夜勤体制を取るためにはどのような勤務体制、職員配置を取らなければならぬのか、そのための方法を労基署や社会保険労務士などと相談して模索していること等が報告され、現在の経過措置の延長、個人でのヘルパー利用を可能とする経過措置の延長、障害支援区分も換算要素として盛り込んだ夜間支援体制加算の見直しを求めることが必要であるという意見があげられた。これについては、当協議会として情報を収集しながら状況を把握していくことになった。

◇千葉県袖ヶ浦福祉センターで起

きた事故に対して、利用者の適正な処遇と安全を確保するための緊急提言についての報告が千葉県・社会福祉法人葉の花会しもふさ学園 小林勉氏からあった。第三者検討委員会が開かれ、虐待事故の概要調査を行ったところ、これまでも事故につながる背景があったことが報告され、人手不足からではなく、組織の体質に問題があったこと、委員会や外部監査などチェック体制が機能していなかったこと、医者や看護師は現場との連携がとれていなかったことなどが原因となっており、民間施設であれば閉鎖になるところであるが、事件後も利用者は一人も退園していないことから、施設内の古い体質を立て直す必要があることが報告された。今回の事件から本協議会においても各施設が現場主導で虐待防止委員会を作り、環境を整備する必要があることが提案された。

(全自者協事務局)

**発達障害支援スーパーバイザー
養成研修始まる!!**

日本ではスーパーバイザーの不足から教育や福祉の現場でのスーパービジョンがなおざりにされ、理解不足や間違った支援の結果、二次障害が生じることも少なくありません。そのため、発達障害児・者への支援を行う発達障害者支援センター、自閉症関係施設職員及び発達障害児・者の医療、保健、福祉、教育、労働の各分野の実務に携り、一定程度の実務経験のある方を対象に、第一人者による講義と全国自閉症者施設協議会加盟施設での実務研修、さらには当事者の方々への支援や事例研究を通して関係機関・団体及び地域の核となるスーパーバイザーの養成を全国自閉症者施設協議会と日本自閉症協会が主催となり、日本財団の助成を受けて開催することになりました。本養成研修は全自者協の専門性を広く普及する機会となり、全国の自閉症者支援の軸となっていくことも予想されることから、本誌を通して、継続的に活動報告をさせていただきたいと考えています。

**発達障害支援スーパーバイザー
養成研修概要**

主催…一般社団法人日本自閉症協会、全国自閉症者施設協議会
後援・協力団体…一般社団法人日本発達障害ネットワーク、日本自閉症スペクトラム学会、発達障害者支援センター全国連絡協議会事務局、全国自閉症者施設協議会事務局
受講資格…発達障害者支援センター及び自閉症関係施設の職員で3年以上の実務経験を有する者
発達障害児・者の医療、保健、福祉、教育、労働の実務に携り、3年以上の実務経験を有する者
※いずれも所属機関若しくは団体の推薦状を添付すること。
募集人員50名
受講費用20,000円
研修内容(3日間×2回・16講義)集合研修
前期集合研修
△会場▽日本財団大会議室
△日程▽平成26年7月18日(日) 20日(日)
後期集合研修
△会場▽日本財団大会議室
△日程▽平成27年3月13日(金) 3月15日(日)
実務研修
(2機関選択・各4～5日間)

平成26年度

発達障害支援スーパーバイザー養成研修(日本財団助成)

<前期集合研修日程> 日本財団大会議室 (東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル)

研修会日	研修内容	講師
7月18日(金)	開講式 13:00~13:40	
	『親として専門家に期待すること』 13:40~14:40	日本自閉症協会(保護者) 理事 今井忠氏
	『発達障害の特性理解』 14:50~15:50	日本発達障害ネットワーク 理事長 市川宏伸氏
	『虐待防止と権利擁護』 16:00~17:00	厚生労働省障害福祉課地域生活支援推進室 虐待防止専門官 曾根直樹氏
交流会 17:30~19:30		
7月19日(土)	『発達障害福祉行政の展望』 9:00~10:00	厚生労働省障害福祉課障害児発達障害者支援室 発達障害対策専門官 日詰正文氏
	対談 『特別支援教育の課題と展望』 10:10~11:40	文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 特別支援教育調査官 田中裕一氏 日本自閉症スペクトラム学会 事務局長 寺山千代子氏
	『発達障害支援の現状と課題』 12:40~13:40	発達障害者支援センター全国連絡協議会 副会長 和田康宏氏
	『受容的交流療法』 13:50~15:20	社会福祉法人 嬉泉 世田谷区発達障害相談・療育センター センター長 沼倉実氏
『構造化された指導や支援のアイデア』 15:30~17:00	横浜やまびこの里 東やまたレジデンス 支援課長 西尾保暢氏	

7月20日(日)	『自閉症支援の基礎となるもの』 9:00~10:30	全国自閉症者施設協議会 会長 五十嵐康郎 氏
	『自閉症の動作法』 10:40~12:10	愛知教育大学 教授 森崎博志 氏

<後期集合研修日程> 会場 日本財団大会議室

研修会日	研修内容	講師
3月13日(金)	開講式 13:00~13:40	
	『当事者からのメッセージ』 13:50~15:20	発達障害当事者会イトコサガシ 代表 冠地情 氏
	『発達障害の応用行動分析』 15:30~17:00	鳥取大学大学院 教授 井上雅彦 氏
	交流会 17:30~19:30	
3月14日(土)	『高機能広汎性発達障害』 9:30~11:00	NPO法人アスペ・エルデの会 会長 辻井正次 氏
	『発達障害の就労支援』 11:10~12:40	宇都宮大学 教授 梅永雄二 氏
	『アセスメントの力を高めるためのスーパー バイザーの役割と事例検討の進め方』 13:40~17:00	大正大学人間学部臨床心理学科 教授 近藤直司 氏
3月15日(日)	『発達障害を巡る諸問題』 9:00~10:30	一般社団法人 日本自閉症協会 会長 山崎晃資 氏
	『研修報告』 10:40~12:00	主催者
	修了式(講評・終了証交付) 12:00~12:30	

※集合研修の内容、講師等は変更する場合があります。

<実務研修実施法人>

北海道・東北ブロック

侑愛会(北海道北斗市) ライフステージを通して総合的に支援・療育(医療・教育・福祉)を提供
はるにれの里(北海道石狩市他) 自閉症者施設、強度行動障害のある人の地域移行に積極的に取り組む

関東・神奈川ブロック

梅の里(茨城県東茨城郡茨城町) 自閉症施設、通所事業、ケアホーム、発達障害者支援センターに取り組む
けやきの郷(埼玉県川越市) 自閉症者を中心とする就労継続支援A型に取り組み「障害が重くとも自立を目指す」
菜の花会(千葉県成田市) 自閉症施設、早期療育、地域支援、発達障害者支援センターに取り組む
嬉泉(東京都世田谷区他) 児童入所施設、児童発達支援、自閉症者施設等からなる総合施設
正夢の会(東京都稲城市) 早期療育、生活支援、地域支援、相談支援等を総合的に提供
横浜やまびこの里(横浜市都筑区) TEACCHプログラムの理念を柱に支援の方向性を定めて事業を展開
川崎市くさぶえの家(川崎市高津区) 川崎市社会福祉事業団として、地域のニーズに応じて障害福祉事業を提供

北信越・東海ブロック

めひの野園(富山県富山市) 支援を受けながら地域で自立した生活ができるよう総合的な療育・援助を提供
檜の里(三重県三重郡菟野町) 自閉症総合援助センターとして、保護ではなく、豊かな人生を生き抜くよう援助

近畿ブロック

北摂杉の子会(大阪府高槻市) 早期療育、生活支援、就労支援、就労移行支援等に取り組む総合施設
あかりの家(兵庫県高砂市) 生涯援助の視点から多様なニーズに対応する「自閉症総合援助センター」を目指す

中国・四国・九州ブロック

三気の会(熊本県菊池郡大津町他) 日々の暮らしを通して、円滑な生活と活動の場の広がりを目指す
萌葱の郷(大分県豊後大野市) 早期療育、生活支援、就労支援、地域支援、相談支援等を総合的に提供

※日程は4~5日間で各法人毎に設定し、受講が決定した方に詳しい実務研修要綱をお届けします。

※受講者にお届けする各法人の実務研修要綱を参考に2箇所の実務研修法人を選んで受講していただきます。

**発達障害支援スーパーバイザー養成研修
(日本財団助成) 前期集合研修**

平成26年7月18日(金)から20日(日)までの3日間、日本財団大会議室(東京都港区赤坂)において、発達障害支援スーパーバイザー養成研修前期集合研修が開催されました。全国各地から90名を越える参加があり、この養成研修に対する期待の大きさが伺われました。

今回の研修では、保護者の方からのお話、行政や発達障害者支援センターの方からのお話、そして、発達障害の特性やさまざまな支援アプローチについての講義など、実に盛りだくさんの内容で、とても充実した学びの場となりました。このあと、全国に15ある受入法人での実務研修へと進みます。多くの学びと交流が全国各地に広がっていくことでしょう。

では、研修の模様(一部ではあります)を写真でお知らせしていきます。

まずは、開講式の様子です。後ろから撮っていますが、なんとなく緊張感が漂っていますね。



続いては、講義の様子を二枚ほど。参加者の動きを仕組んでいただいた講義もあり、真剣にかつ和やかに研修が進んでいきました。



一日目の研修終了後には、交流会も行われ、情報交換や親睦が深まりました。



さて、今回の集合研修に参加された方々にインタビューを行っています。題して「十人に聞きました」です。十人にしか聞いておりませんので、参考までに。

- ① 受講のきっかけは何ですか？
 - ・ 自ら参加したいと言った 6名
 - ・ 施設から勧められた 4名
 - ・ 4名の方々のうち、2名は「ラッキー」と思った」そうで、あと2名は「たいへんそうだと思ったけど、今回の研修で楽しみに思えた」と話してくれました。
- ② 楽しみにしていることは？
 - ・ 実務研修が楽しめる 3名
 - ・ 違う施設が見られる 2名
 - ・ 気になっていた施設に行ける
 - ・ もっとスキルアップができそう
 - ・ 職員にアドバイスできるように
 - ・ になりたいし、なれるかも
 - ・ 研修の成果をどう職員に伝えていこうかワクワクしている
 - ・ いい緊張を味わいたい

地域のリーダーになれる支援者が増えていくことで、地域のレベルアップがされていくことでしよう。楽しみです。

(広報委員会)

前号の続きを掲載させていただきます。前号をお読みでない方は、併せてお楽しみ下さい。(編集人)

自閉症の人達との楽しい 余暇活動(その2)

社会福祉法人 梅の里「あいの家」

主任 春日 和之

「一人に一つの楽しみを一緒に探す」、その事が余暇支援に取り組む私のコンセプトであり、福祉の世界に入った頃よりその姿勢に変わりはありません。

自閉症に限らず多くの施設の支援員と利用者の立場は、作業でも生活関連行為や余暇支援においても、とかく「支援する側」「支援される側」となりがちです。支援員によっては人柄から安心を醸し出し、利用者の意欲や満足を誘える方もおりますが、支援員に対し利用者が多いなどの大変さが現実で、「やらせる」「やらされている」の関係からでは「楽しみや共感」までにはなかなか繋がるものではないかもしれません。私は、これまでの20年余りの取り組みを通した体験

から、「楽しみから生れた共感は、自閉症の方と我々支援する立場の人間とを、豊かに結びつける架け橋になるもの」と信じています。

「自閉症」との漢字のもつ語意には、常日ごろ疑問を抱いています。「自分を閉ざす」とは大変に失礼で、知慮浅い文言だと思いません。何故なら、其々の持つ文化の中から、か細いチャンネルで我々と関わりたい方が殆どだからです。現場で20年余りもお付き合いしていれば自然と分かってくる。そして、「すこし」を提供し、試行錯誤する中で、「楽しみと共感」という結果に繋がりました。大変に親しくなれました。

今回は、私が「あいの家」に異動してから、千葉大会までの19年程の間にやりとりした、余暇活動の一部をご紹介します。

「すこし」を提供していく中で、私自身が成長する機会となった取り組みがあります。最初の機会は数学的天才に作った「計算箱」でした。該当する彼とは、性格が大変に似通っており、出会って1ヶ月程で悩みを理解し、以下で説明する「計算箱」を提供しました。

その結果、悩みが解消し大きな安定をもたらすことができました。自閉症の持つ魅力に取りつかれるキッカケとなった事例なのです。

(1) 計算箱：数学的天才の悩みを解消させるために考案。

驚異的な計算能力と記憶力を持ち、計算機や時計などに強い関心を示すものの、こだわりが高じると苛立ちに転じ、それらの機器を破壊してはトイレなどに詰めてしまふ。興味の対象となる計算機、時計、算盤を壊されないように、アタッシューケース形にした木の箱にはめ込んだ上に、怖くなったり苛立ったなら自ら見えなくできるよう蓋を取り付ける。

以上により、数字や時間と良好な関係が成立しマイナス行為が大きく減少している。



(2) 野球遊び(3連でのキャッチボール)：健常者では、クイックによる連携プレー。
5mほどの間隔で利用者を3人並べて、キャッチボールをする。自閉症の人達の多くは協調運動に乏しく、構えた足を動かさず(足の位置へのこだわりも絡んで)上下半身を連動させずに捕って投げるが、中に入った人は捕球、反転、投球と3つの動作が必要となるので、足を動かす新たな動きがもたらされる。



(3) 野球遊び(バック・トス)：健常者では、ミートポイントへの正確な振り出し。

ボールに対してバットを振り出し振り抜く人は少なく、ボールに反応する人でも、構えているバットに当てるのみの人が多い。支援員が捕手の位置に座り、ミートポイントに緩くトスを上げると、リリースから見ている利用者は、ポ

イントから逃げていくボールを追う動きとなり、後ろよりバットを押し出し当てにいく。定着したなら支援員は前方より投じるが、打って飛ばす楽しみから、バットを振り出したのミートが可能となる人がいる。



(4) パズル1 (絵柄のみで判断する)：一つの台に(縦向き仕様)はめ込まれた、横向きパズル×2 (「基盤の目状」と「段違い」)。利用者によっては、パズルとは

台も絵柄も横向きと捉えこたわる人がいる。そのこだわりの軽減を狙い考案する。当初は「基盤の目」状にカットして、数作品を提供しているが、その事によりパーツを選びはめ込む判断の比重が、形なのか絵柄であるかを理解できている。



(5) パズル2 (絵柄のみで判断する)：多くのニーズから旧国鉄・JRの電車を用いている。

主に絵柄で判断している人には、ブロック状の「互い違い」にカットしたパズルを提供する。多くの人は「基盤の目」状の仕上がりにこだわり困惑するが、取り組む中で絵柄を理解し、異なる形状を受け入れて仕上げていく(マッチングのしやすさを考えて、ガイドシートを用いている)。以上をキッカケに菱形ベースや同心円な



(6) 電車でGOGO：電車に関心があってもゲームの操作に難しい人が対象。「音の出る絵本」から音の出る部位を剥がしファイルノートに貼り付ける。該当者に馴染みのある路線



を、運転台から写真撮影しファイルノートに差し込む。駅構内や車内の放送を録音し提供すると効果は大きく、無為時間の一人遊びとして楽しめる。

(7) 二人用のスマートボール：弾き棒を左右に取り付けてある形状。

分かりやすさを考慮して、「五目並べ」状にビー玉の入る穴を配置し、ビー玉も左右で色違いとする。「ビー玉を入れる」弾き棒を引く「放つ」と3つの動作が入るが、手添えからのやりとりで多くの人は可能となる。次いで、左右順番に弾く動きを促していく。キャッチボールの際、相手を意識して投げられる人には、順番を理



(8) 夕食の塗り絵：食べ物塗り絵は市販されているが、やる気の引き出しが難しい。利用者が好むハンバーガーやトンカツ等が夕食メニューであったら、支援員が即興で図柄を描き

「すこし」で提供する。食べた直後でもあり動機付けが容易であり、多数の利用者にフィットしている。



以上は代表的な取り組みであり、これまで提供し積み上げてきた取り組みのごく一部です。私の余暇支援のやりとりは基本的に、個別支援計画の枠の中だけで考える視点ではありません。それは「良寛さんが子供と遊ぶ姿勢」です。「慈しむ気持ち」が寛ぎや楽しみに繋がる」と思うものであって、障害の有無を超えた立場です。「教えるとか指導する」といったやりとりを幼少の頃より体験されている自閉症の人には、「慈しみと癒し」を基調としたやりとりが親切と考えるからです。

自閉症の人達には個々に、物の見方捉え方やこだわり等の文化があります。例えば運動機能にもそれが絡みますから運動神経の良し悪しだけでなく千差万別です。

従いまして、我々が当たり前に捉えている取り組み方や、価値や流儀などを取り払い、其々のニーズを押し量り一緒に楽しみを探していく姿勢が不可欠であり、取り組みやすい方法や動き、設定の仕方などが大切となります。

それには、「時々のニーズを的確に捉える観察力」、「リソースフルな発想」、「粘り強い継続」が欠かせません。それは即ち、我々が「ああでもない、こうでもない」と前向きに考えるという事。その事により、自閉症の特徴である「個々の文化」に対するオーダーメイドの関わり方が少しでも可能になれば、利用者への理解は更に深まるものと考えます。

自閉症の人達への余暇支援とは、「不思議の小箱を開く！」と表現できる夢を覚えるやりとりなのです。

そして今の課題は、「次代へ継承」です。

**世界自閉症啓発デー2014
シンポジウム報告**

今年の3月29日(土)に第6回「世界自閉症啓発デー2014シンポジウム」が東京の霞が関にある灘尾ホールで開催されました。今回は「共に支え合うーみんなで作ろう、やさしい街ー」をメインテーマとして、2つのシンポジウムを中心に地域での生活や支援の在り方等の報告や活発な議論がなされました。また会場内では当事者による絵画などの作品、全国から寄せられた応援メッセージ、発達障害者向けの機器などの展示や、被災地施設からのグッズの展示販売なども行われました。シンポジウムの具体的な内容は以下の通りです。

「プログラム」
 総合同会 国沢 真弓
 ●開会式 10:00～10:40
 主催者挨拶、来賓祝辞、来賓紹介、国連事務総長メッセージ
 ●シンポジウム① 10:50～
 「暮らしやすい街づくり」
 司会 山崎 晃資
 (日本自閉症協会)
 寺山 千代子
 (日本自閉症スペクトラム学会)

シンポジスト

- 宮西 義憲 (北海道芽室町 町長)
- 秋山 浩保 (千葉県柏市 市長)
- 泉 房穂 (兵庫県明石市 市長)
- 指定発言
 上田 マリ子 (北海道自閉症協会)
 本田 秀夫 (山梨県立こころの発達総合支援センター)

―昼食休憩―
 ●13:40～
 「全国各地の活動の様子」上映
 ●シンポジウム② 14:00～
 「私たちの街では」
 司会 今井 忠
 (日本自閉症協会)
 日詰 正文
 (厚生労働省)

シンポジスト
 山本 純一郎 (発達・精神サポートネットワーク)
 武山 弥生 (発達障害児・障害者及び家族支援の会シリーズ)
 金 智子 (秦野インクルージョン)

指定発言

- 熊本 葉一 (岩手県自閉症協会)
- 和田 康宏 (兵庫県発達障害者支援センター クローバー)
- 閉会式 16:10～16:20
 ・当事者のメッセージ
 白崎 やよい
 田中 透 (北海道)

・主催者挨拶
 今回、シンポジウムに先がけ、主催者側からは村木厚子厚生労働事務次官、山崎晃資日本自閉症協会会長の挨拶、その後来賓の上野通子文部科学大臣政務官、外務大臣の代読で、図師執二外務省総合外交政局人権人道課首席事務官、発達障害の支援を考える議員連盟事務局長の高木美智代衆議院議員から祝辞をいただき、また同議員連盟の井上義之参議院議員の臨席を賜りました。
 シンポジウム1では、政務ご多忙の自治体の首長にご参加いただき、「暮らしやすい街づくり」の実践についてそれぞれの地域の特徴を生かした取り組みやその熱い思いを語っていただきました。シンポジウム2は「私たちの街では」

をテーマに当事者や支援者の方々が、試行錯誤しながらも必要と思われる支援に積極的にきめ細かく取り組んでいることをお話しいただきました。

このシンポジウムは各方面からの多大な協力と理解を得てこれまでも、官民が一体となり執り行ってきた。開催が東京であるものの、全国各地での取り組みを発信できるようにと願い、回を重ねるごとに内容もバラエティーに富んだ幅広い充実したものになってきました。併せてプログラムにとどまらず、会場からも当事者の発言が多くみられ、一緒に考える会となつていきます。自閉症を始めとした発達障害がある人達が、どうすれば社会の中でその人らしく暮らせるか、皆さんの熱意やそして共に考え、共に生きていくという真摯な思いにふれることができるシンポジウムであると感じています。一般の方々に自閉症に対する認識を広めつつ、広く参加していただけるシンポジウムへと発展させていけることを今後も期待しています。

*併せて4月2日には、東京タワーブルーライトアップ式典も盛大に行われました。

(社福) 嬉泉 樋口美津子

平成26年度

第1回広報委員会報告

日時：平成26年7月17日(木)
場所：(社福)嬉泉
子どもの生活研究所

◎広報委員の紹介

【広報委員長】

五十嵐 猛

(社福) 萌葱の郷

大分県発達障がい者支援センター

「現場の専門性を発信していきますので、どしどしご意見をお寄せください」

【委員】

加藤 潔

(社福) はるにれの里

札幌市自閉症者自立支援センター

「まじめな文章を書くのは苦手ですが、広報の品位を下げないようがんばります」

高橋 一精

(社福) 三気の会

障がい者支援施設 三気の里

「利用者の皆様への還元を第一義におき、活動して行きたいと思っています。」

宇治原 誠

(社福) 嬉泉

地域生活支援センター たのしみ

「広報委員の活動を通して、自

身の成長も図れるように頑張りたいと思います。」

福原 正将

(社福) あかりの家

児童デイサービスあかりの家

「全自者協の未来のために、微力ながら繋ぎのお手伝いをさせていただきます。」

◎平成26年度広報委員会活動予定

- ・発達障害支援SV養成研修取材
- ・全自者協ニュース第44号発行
- ・熊本大会 第5分科会企画・運営
- ・全自者協ニュース第45号発行
- ◎熊本大会 第5分科会 打ち合わせ

DSM-5病名・用語翻訳ガイドライン(初版)における「自閉スペクトラム症/自閉症スペクトラム障害」の診断名について

日本精神神経学会精神科用語検討委員会により、DSM-5の病名や用語に対してさまざまな訳語が用いられ混乱が起きることのないうように、精神科関連15学会・委員会の代表として、日本精神神経学会精神科病名検討連絡会を組織し、総計17回にわたる連絡会議を通してDSM-5病名・用語翻訳ガイドライン(初版)が作成されました。

病名・用語を決める際の連絡会の基本方針として、①患者中心の医療が行われる中で、病名・用語はわかりやすいもの、患者の理解と納得が得られやすいものであること、②差別意識や不快感を生まない名称であること、③国民の病気への認知度を高めやすいものであること、④直訳が相応しくない場合には意訳を考え、アルファベット病名はなるべく使わないこと、等が配慮され、「障害」を「症」と訳すことが検討されました。その反面、「症」とすることは過剰診断・過剰治療にもつながる可能性があるといった意見もあり、専門学会の要望の強かった児童青年期の疾患と不安症およびその一部の関連疾患に限り変えるとともに、「症」と変えた場合とDSM-IVなどから引き継がれた疾患概念で旧病名がある程度普及して用いられている場合には、新たに提案する病名の横に旧病名をスラッシュで併記することになっていきます。更に、連絡会では、今後も委員の意見を参考にDSM-5の病名・用語に関して検討を加えていくことを予定しているようです。

参考文献・精神神経学雑誌 第116巻 第6号(2014) 429,431頁

第28回 全国自閉症者施設協議会 熊本大会 開催要項

1. 大会趣旨

全国自閉症者施設協議会は、「自閉症者の人権と生きるための発達保障、自立、社会参加の実践と研究の推進」を目的として、30年近い歴史を重ねてきました。そこには語り尽くせないほどの苦悩や喜びがご本人・ご家族・支援者にあったはずです。また、その間、様々な法律や制度の改正の下、その都度、時代に応じた対応を迫られてきました。特に近年は、障害者虐待防止法や障害者総合支援法の施行をはじめ、障害者権利条約を批准した変革をご承知の通りです。

時代に沿って30年近く第一線で実践を積み重ねてきた自閉症専門施設として、ノウハウの還元を第一義的に置きつつ、自閉症者の生涯にわたる包括的な支援のありかたについて、もう一度過去を見つめ、現在を検証し、そして未来を見据えていきたいと思えます。

2. 主催

全国自閉症者施設協議会

3. 担当

中国・四国・九州ブロック施設
主管：三気の里（熊本県）

4. 後援

熊本県、熊本市、大津町、（一社）日本自閉症協会、熊本県自閉症協会、（公財）日本知的障害者福祉協会、熊本県知的障がい者施設協会、（社福）熊本県手をつなぐ育成会、ひのくに知的障害児者生活サポート協会、（一財）熊本国際観光コンベンション協会、熊本日日新聞社、テレビ熊本

5. 期日

平成26年11月13日（木）～14日（金）

6. 会場

メルパルク熊本
〒860-8517
熊本県熊本市中央区水道町14-1
Tel.096-355-6311

7. 参加対象者

全国自閉症者施設協議会会員施設職員、知的障がい者関係施設職員、その他関係機関職員、家族（保護者）

8. 参加費

両日5,000円 1日のみ3,000円

9. 日程

1日目：11月13日（木）

開会式 13:00～13:30

行政説明 13:40～14:30

日誌正文氏（厚生労働省）

リレートークⅠ 14:30～15:30

五十嵐康郎

（全国自閉症者施設協議会 会長 めぶき園）

三原憲二

（全国自閉症者施設協議会 副会長 あかりの家）

基調講演 15:50～17:30

ステイブ・クルーバ氏

（臨床心理士、前フェイエットビル TEACCH センター長、元九州大学客員教授、現在はコンサルタントとして主に日米で活躍中）

情報交換会 18:00～20:00

2日目：11月14日（金）

分科会 9:00～12:00

リレートークⅡ 13:00～14:00

松本 正（ひらきの里 施設長）

松上利男（北摂杉の子会 常務理事）

記念講演 14:15～15:45

井上雅彦氏

（鳥取大学大学院

医学系研究科臨床心理学講座教授）

閉会式 15:45～16:00

10. 大会事務局

障がい者支援施設 三気の里

〒869-1217

熊本県菊池郡大津町森54-2

Tel.096-293-8100 Fax.096-293-8101

E-mail info@sanki.or.jp

担当：松本、寺田、高橋

自閉症スペクトラムのための総合保障のご案内

平成26年4月1日に日本自閉症協会の一般社団法人化及び共済事業の特定保険業者への移行を行うことが出来ました。今後とも当会保険事業の運営にご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

～平成26年度途中加入をお考えの方へ～

詳細はお問い合わせ下さい。パンフレット等を送らせて頂きます。

保障内容

病気やケガでの入院、ケガでの通院、個人賠償補償がセットされています

【ASJ保険】

病気やケガでの入院 2日目から対象

- 入院共済金 1会計年度30日まで
- ・付添介護費用 1日 8,000円
- ・差額ベッド費用 1日 5,000円
- ・入院臨時費用 1入院 5,000円
- ・入院諸費用 1日 1,000円
- 死亡弔慰金 50,000円

【AIU傷害保険】

ケガでの入院、通院、初日から対象

- 本人の傷害(ケガ)の補償(入院・手術・通院)
 - 死亡・後遺障害保険金
 - 他人への損害賠償金(対人・対物)
最高5,000万円まで補償
- ※自転車事故で損害賠償を負った際も対象になります

途中加入掛金

会員種別	11月1日加入	12月1日加入
◆加入タイプ A(年間掛金 15,900円) 日本自閉症協会正会員(加盟団体)の構成個人会員	年間掛金 6,920円	年間掛金 5,630円
◆加入タイプ B(年間掛金 16,400円) 自助会員(上記以外の方は申し込みにて自助会員となります)	年間掛金 7,420円	年間掛金 6,130円

【保険金の請求について】

薬の調整のための入院、精神科への入院、てんかん発作での入院、親不知抜歯のための入院、骨折などのケガでの入院でも、入院2日目から対象になります。

【保険金を受け取られた加入者様の声】

- ・障害者を対象とする保険が多くできることを望んでいます。
- ・付添いがどうしても必要になるので、その部分が手厚くて助かります。
- ・保険金の給付までの日数が思いのほか早かったです。
- ・母と子の二人家庭で、ずっと泊り込んでつきっきりでした。入院した日はパニックで精神的にも体力的にも限界でしたが、保険金が入りなんだか涙がでるほどうれしかったです。

◆ お問い合わせ・お申し込み先 ◆ ☎ 03-5565-2020

**ASJ保険
事務局**

〒104-0044 東京都中央区明石町6-22 築地622

一般社団法人 日本自閉症協会内

FAX 03-5565-2021 営業日 月～金(土・日・祭日除く)10:00～16:00

E-Mail : asj-hoken@autism.or.jp ホームページ : <http://www.autism.or.jp>

編集後記

広報委員会も新体制となり、北海道の加藤氏を加え、新委員長の五十嵐猛氏の下で活動をスタートしました。7月の第1回広報委員会において、委員の初顔合わせを行い、今年度の活動内容を検討したところ、現場目線の活発な意見を交わし合うことができました。所属や地域を超えて、広報活動を通しながら団結できたことを感じています。

こうした機会をいただけていることに感謝するとともに、今号の発行に際し、ご協力下さいました多くの皆様方に感謝申し上げます。

編集人：宇治原